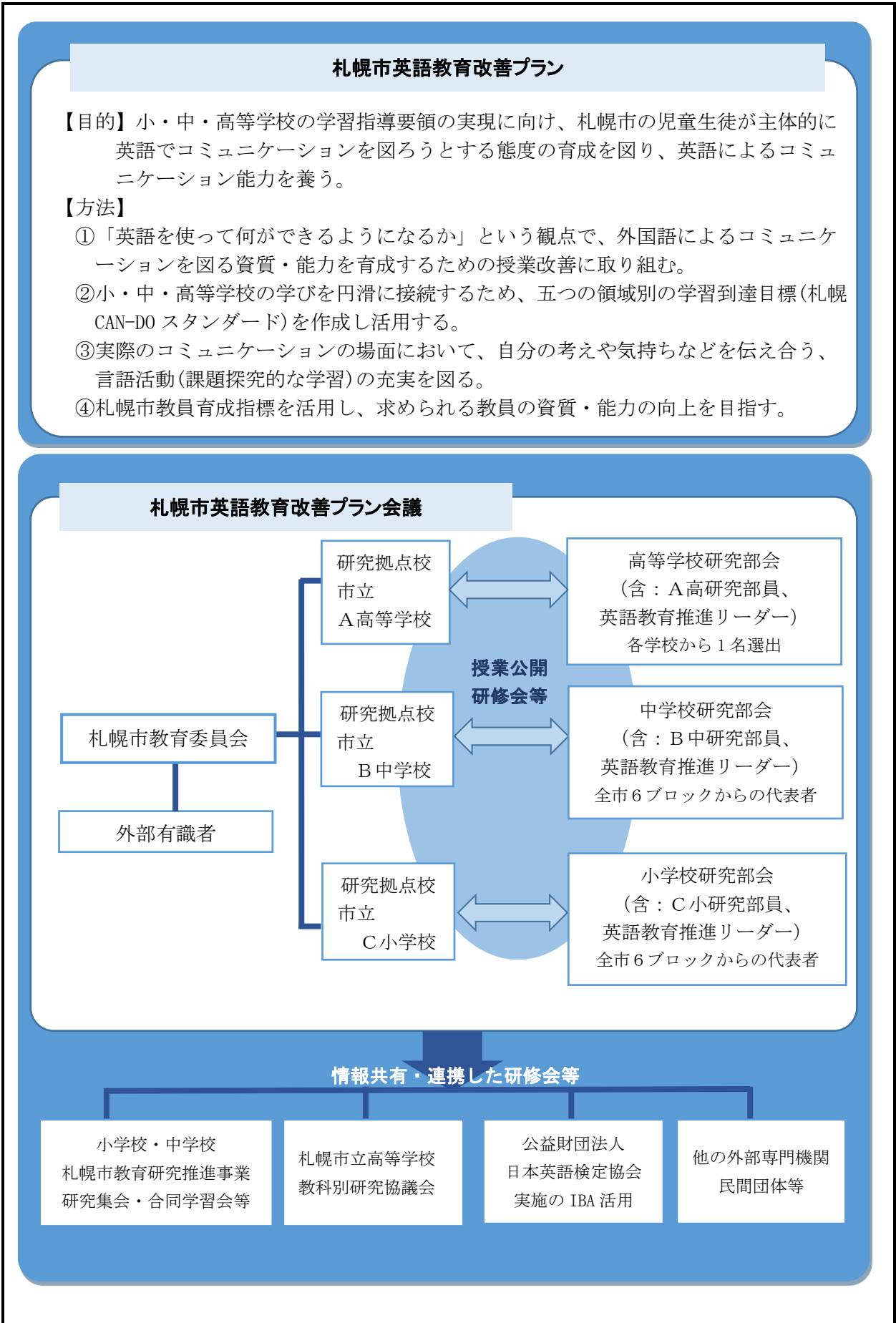


札幌市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①【教師の英語力】

求められる英語力を有する教師の割合

		2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	—	44.0%	48.0%	52.0%
	達成値	40.5%			
高等学校	目標値	—	80.0%	82.5%	85.0%
	達成値	78.8%			

本市における現状と課題

- ・求められる英語力（CEFR B2）を有する教師の割合は、2019年度の調査において、本市中学校では40.5%、高等学校では78.8%である。教師の英語力が、より生徒の英語力の向上や生徒の英語による言語活動につながるよう、更なる授業改善に向けた研修等を充実させていく。

目標管理

- ・中学校・高等学校の英語教員を対象に、外部専門機関と連携した「英語教員授業力パワーアップ研修」を新たに実施し、指導者である教員の英語力の向上を図る。
- ・高等学校英語担当教諭を英語教育海外派遣研修(独立行政法人教職員支援機構主催)へ派遣し、英語担当教員の英語力の向上を図る。
- ・教育委員会主催の「外国語指導助手(ALT)指導力等向上研修」において、外部専門機関と連携した研修を実施し、ネイティブ講師及びALTとの実践的な演習等を通して、教員の英語力の向上を図る。
- ・新たに札幌市英語教育改善プラン各校種研究部会を設置し、英語力を高めるための方法等を検討し、小学校、中学校における「札幌市教育研究推進事業」（以下、札幌教研）研究集会や学習会及び高等学校における「札幌市立高等学校教科別研究協議会」で情報を共有することで、教員の英語力向上を図る。
- ・文部科学省が実施している英語教員を対象とした外部試験特別受験制度の情報を、教育委員会から各学校に周知するとともに、受験を促すことで教員の英語力の向上を図る。
- ・本市で設定している「札幌市教員育成指標【教員編】」における、教員の素養のひとつである学び続けようとする意欲の観点を中心に意識するように促し、英語教員が常に自己研鑽に努め、主体的に自身の英語力の向上に努めることを促す。

②【生徒の英語力】

求められる英語力を有する生徒の割合

		2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	—	48.0%	54.0%	60.0%
	達成値	41.9%			
高等学校	目標値	—	63.0%	65.0%	68.0%
	達成値	60.4%			

本市における現状と課題

- ・求められる英語力（中学校 CEFR A1、高等学校 A2～B1）を有する生徒の割合は、2019年度の調査において、本市中学校で割合は41.9%、高等学校では、60.4%である。
- ・中学校において、2019年度4月に実施した全国学力・学習状況調査では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について、全国平均よりもやや上回っている。引き続き、目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや思いを伝え合う言語活動のより一層の充実を図り、生徒の英語力の向上を目指す。

目標管理

- ・全ての中学校生徒に対して公益財団法人日本英語検定協会主催の「英語能力向上事業」（以下、

英検 IBA) を実施するとともに、結果を示す個人成績表を活用することにより、各学校において、客観的なデータを基に生徒一人一人に応じた指導を行うことで、生徒の英語力の向上を図る。

- ・中学校においては、札幌市英語教育改善プランの中学校研究部会において、全国学力・学習状況調査や英検 IBA の結果を踏まえて、札幌市全体の生徒の英語力向上の方向性を整理する。その内容について札幌市教育研究集会・学習会等において学校と共有し、各校における指導の改善につなげることで、生徒の英語力の向上を図る。
- ・高等学校においては、外部試験の結果等から生徒一人一人の課題を整理し、生徒の言語活動の質的量的な高まりを求める有効な手立てなどを共有し生徒に応じた指導を展開することで、生徒の英語力の向上を図る。
- ・高等学校において、スピーチやプレゼンテーションなどの「話す」取組や聞いたり読んだりしたことを自分の言葉で「書く」取組を増やすことで、生徒の英語力の向上を図る。

③【小学校・中学校・高等学校 学習到達目標の整備状況】

			2019	2020	2021	2022
小学校	設定	目標値	—	5.0%	30.0%	50.0%
		達成値	—			
小学校	公表	目標値	—	5.0%	30.0%	50.0%
		達成値	—			
小学校	把握	目標値	—	10.0%	30.0%	50.0%
		達成値	—			
中学校	設定	目標値	—	65.0%	80.0%	100.0%
		達成値	58.2%			
中学校	公表	目標値	—	20.0%	40.0%	50.0%
		達成値	11.2%			
中学校	把握	目標値	—	30.0%	50.0%	60.0%
		達成値	18.4%			
高等学校	設定	目標値	—	100%	100%	100%
		達成値	100%			
高等学校	公表	目標値	—	40.0%	50.0%	60.0%
		達成値	28.6%			
高等学校	把握	目標値	—	75.0%	80.0%	85.0%
		達成値	71.4%			

本市における現状

- ・小学校においては、令和2年度中に各学校で設定することを周知済。
- ・中学校では約半数の学校において、高等学校では全ての学校において学校到達目標を設定している。

目標管理

- ・令和2年度中に、札幌市英語教育改善プランの各校種研究部会において、CAN-DOリスト形式の学習到達目標のモデルとなる、札幌CAN-DOスタンダードを作成し、各学校の参考となるよう周知することで、学習到達目標の整備率の向上を図る。なお、翌令和3年度には、各学校でのCAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定が進むよう、研究拠点校において、札幌CAN-DOスタンダードに基づいた授業公開・研修会等を実施し、授業改善の成果について周知予定。
- ・小学校、中学校においては、札幌市教育研究集会等にて、指導主事及び英語教育推進リーダー等から学習到達目標の設定の必要性和効果について全体に周知することで学習到達目標の整備率の向上を図る。
- ・高等学校では教科別研究協議会等において、また小学校、中学校では札幌市で行っている研究集

- 会・学習会等において、各校へ札幌CAN-DOスタンダードについて普及・啓発を図ることで、学習到達目標の整備率の向上を目指す。なお、令和3年度内に、各校種において札幌CAN-DOスタンダードを参考にCAN-DOリスト形式の学習到達目標の見直し及び設定、公開を推奨していく予定。
- ・高等学校においては、10月実施予定の教科別研究協議会等において、学習到達目標の整備について各学校における取組を交流することで、整備率の向上を図る。
 - ・本市で設定している「札幌市教員育成指標【教員編】」における、学習指導の観点を常に意識するように促し、教科の専門性やねらいを明確にし、地域や学校の実態を的確に捉えた上で、学習到達目標の整備に努めるよう働き掛ける。

④【生徒の英語による言語活動】

授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合
半分以上の時間、英語による言語活動を行っている教員の割合

		2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	—	65.0%	70.0%	75.0%
	達成値	57.9%			
高等学校	目標値	—	75.0%	80.0%	85.0%
	達成値	72.7%			

本市における現状と課題

- ・中学校、高等学校ともに学年が上がるにつれて、生徒の英語による言語活動の時間が少なくなる傾向がある。また、学校や授業を担当する教師によっても差があることから、CAN-DO リスト形式の学習到達目標を活用するなどして育成すべき資質・能力を明確にするとともに、各校種の研究部会を中心に言語活動の在り方等を各校へ普及することが求められる。

目標管理

- ・中学校・高等学校の英語教員を対象に、外部専門機関と連携した「英語教員授業力パワーアップ研修」（仮称）を実施し、生徒の英語による言語活動を増やすための効果的な工夫をテーマに研修し、授業に占める割合の向上を図る。
- ・本市の英語科においては、実際のコミュニケーションの中で自分の考えや気持ちを伝え合い、協働的に探究していく、課題探究的な学習を推進していることから、中学校において、令和2年度に作成予定の札幌市教育課程編成の手引（外国語）に、生徒の英語による言語活動を中心とした課題探究的な学習の事例を掲載し、全中学校教師に活用を促すことで、授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合の向上を図る。
- ・また、同じく札幌市教育課程編成の手引（外国語）において、課題探究的な学習展開例に生徒の英語による言語活動の具体例や授業における生徒の言語活動の時間の割合等を示すことにより、生徒の英語による言語活動時間の占める割合の向上を図る。
- ・高等学校においては、教科別研究協議会等において、望ましい言語活動の在り方をテーマに協議することで、生徒の英語による言語活動時間の占める割合の向上を図る。
- ・なお、令和3年度では、中学校・高等学校では、札幌市英語教育改善プランの研究部会で望ましい言語活動の在り方、英語による言語活動時間の占める割合に関するモデル研究を実施し、研究成果を研究拠点校において授業公開・研修会等を実施する予定。

⑤【パフォーマンステストの実施】

「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施

			2019	2020	2021	2022
中学校	スピーキング テスト	目標値（回）	—	3	3	3
		達成値（回）	3			
	ライティング テスト	目標値（回）	—	2	3	3
		達成値（回）	1.5			
高等学校	スピー キング テスト	目標値（回）	—	2	3	3
		達成値（回）				
	EC I	1.4				
		EC II	0.9			
	EC III	0.4				
		EE I	1.7			
	EE II	2				
	ライテ ィング テスト	目標値（回）	—	2	3	3
		達成値（回）				
		EC I	1.1			
EC II		1				
EC III		1.1				
EE I		1.1				
EE II	1.7					

（ECは「コミュニケーション英語」、EEは「英語表現」の科目名を表す。）

本市における現状と課題

- ・生徒の英語による言語活動同様、中学校・高等学校ともに学年が上がるにつれて、パフォーマンステストの実施回数が減少する傾向がある。学習到達目標の達成状況を適切に把握するために、担当教員の共通理解のもと、年間3回程度のパフォーマンステストを実施し、生徒の変容を見取る必要がある。

目標管理

- ・小学校、中学校では、札幌市の研究集会・学習会等において、高等学校では、市立高等学校教科別研究協議会において、新学習指導要領に基づいた指導と評価の在り方をテーマに研究協議を行い、パフォーマンステストの必要性とその効果について理解を進めることで、パフォーマンステストの実施率の向上を図る。
- ・札幌市英語教育改善プランの各校種の研究部会において、パフォーマンステストの在り方を検討し、各種研修会において実践事例等を活用するなど、パフォーマンステストの実施率の向上を図る。

⑥【中学校・高等学校 教員の英語使用】

授業における、英語担当教員の英語使用状況
発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

		2019	2020	2021	2022
中学校	目標値		55.0%	60.0%	65.0%
	達成値	51.4%			
高等学校	目標値		80.0%	85.0%	90.0%
	達成値	79.9%			

本市における現状と課題

- ・発話の半分以上を英語で行っている教員の割合は、中学校において半数程度であり、なかなか改善されない現状がある。生徒が英語に触れる機会を最大限確保し、授業を英語による実際のコミ

コミュニケーションの場面とするために、英語の発話の割合の向上が求められる。

目標管理

- ・中学校・高等学校の英語教員を対象に、外部専門機関と連携した「英語教員授業力パワーアップ研修」（仮称）を実施し、外部専門機関の講師の指導を受け、英語を使用して授業を進めることを想定したより実践的な演習や、生徒の理解度に応じたクラスルーム・イングリッシュの効果的な使用について学ぶことで、授業における発話の半分以上を英語で行える教員の向上を図る。
- ・教育委員会主催の「外国語指導助手(ALT)指導力等向上研修」における外部専門機関講師による研修等を通じて、ALTと英語担当教員が積極的に英語で意見交流をすることで、より効果的なチーム・ティーチングの促進を図るとともに、授業を英語による実際のコミュニケーションの場面にするよう、教員の英語による発話技術の向上を図る。
- ・中学校においては、令和2年度に作成する札幌市教育課程編成の手引（外国語）において、英語教員が授業中に英語で発話をするものの意義や本市で推進している課題探究的な学習の中で発話の半分以上を英語で行う事例を取り入れ、授業の改善を図る。

⑦【中学校・高等学校 英語担当教員に対する研修実施回数・研修受講者数、小学校教員に対する研修実施回数・研修受講者数】

		2019	2020	2021	2022
小学校	研修実施回数	目標値（回）		32	33
		達成値（回）	31		
	研修受講者数	目標値（人）		1350	1400
		達成値（人）	1300		
中学校	研修実施回数	目標値（回）		33	33
		達成値（回）	30		
	研修受講者数	目標値（人）		800	850
		達成値（人）	750		
高等学校	研修実施回数	目標値（回）		16	18
		達成値（回）	14		
	研修受講者数	目標値（人）		270	280
		達成値（人）	260		

本市における現状と課題

- ・小学校、中学校では、札幌市において、高等学校では、市立高等学校教科別研究協議会において、教員の自主的な研修が充実している。

目標管理

- ・小学校、中学校の札幌市の研究集会・学習会、高等学校の市立高等学校教科別研究協議会において、公開授業を伴う研修を実施し、事前の授業づくりから多くの教員が参画することで、研修の機会の拡充と研修体制の工夫を図る。
- ・中学校、高等学校の英語教員を対象に、外部専門機関と連携した「英語教員授業力パワーアップ研修（仮称）」を実施し、教師の英語力の向上とともに、生徒の言語活動の充実に向けた研修を実施していく。
- ・教育委員会教育センターの各種研修においては、受講者から研修内容等についてのアンケートをとることで事後評価を行いPDCAサイクルにより、教員のニーズに応じた研修体制の工夫を図る。
- ・本市で設定している「札幌市教員育成指標【教員編】」における、学習指導の観点を中心に意識するように促し、児童・生徒の育ちの状況から授業を見つめ直し、自ら授業改善を図ることを推進する。

⑧【小学校専科 新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 (%) (人数)】

		2020	2021	2022	2023	2024	2025
新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 (%)	目標値		21.0	28.3	35.5	42.8	50.0
	達成値	13.7					
人数 (人)	目標値		33	44	55	66	77
	達成値	21					

本市における現状と課題

・採用段階で一定の英語力を有する人材を確保するため、地域における教員免許の取得可能な大学に働きかけ、より一層連携を深める必要がある。

目標管理

- ・教育委員会と教員養成課程を有する大学で採用協議会を実施する中で、小学校教員を目指す学生が一定の英語力を身に付けて大学を卒業するための方策について検討し、大学の教育課程や教員採用検査試験等に係る工夫について、それぞれの在り方や方向性について交流を進める。
- ・大学に対して制度の変更点や意図等を丁寧に共有していくとともに、各大学の教育課程や学生の英語力の状況についての情報収集も併せて行うことで、実現可能な方策について検討・実施し、一定の英語力を有する人材確保に努める。

(3) 研修の体系と内容の具体

【札幌市教員育成指標との関連】

<求める教員像>

- ・教育者として、強い使命感・倫理観と子どもへの深い教育的愛情を、常にもち続けている教員
 - ・教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む教員
- (教員の素養)

使命感・責任感・倫理観	教育者として、崇高な使命を深く自覚し、強い責任感や法令遵守の精神、高い倫理観をもっている。
情熱・教育的愛情	札幌を理解し、愛着をもつとともに、教職への誇りと情熱、子どもへの深い教育的愛情をもっている。
人間性・コミュニケーション	豊かな人間性や広い視野、人権尊重の意識をもち、コミュニケーションを図りながら、同僚性を高め、他者との信頼関係を構築している。
学び続けようとする意欲	常に自己研鑽に努め、向上心をもって主体的に学び続けている

(学習指導)

	【養成段階】	ステージ1 【基礎形成期】	ステージ2 【向上・充実期】	ステージ3 【深化・牽引期】
授業構築	教科の専門性や学習指導要領等を理解し、目標を明確にした授業づくりをしようとしている。	子どもの興味・関心を生かしながら、ねらいを明確にした、「分かる・できる・楽しい授業」を構築している。	学校の特色を生かし、子どもの実態や教科のねらいに応じた多様な授業を構築している。	学校の特色を生かし、子どもの実態や教科のねらいに応じた多様な授業を構築している。
指導技術	板書や発問等の基本的な指導技術を理解し、実践しようとしている。	効果的な板書や発問、ICT等の指導技術を、多くの実践を通して学び、身に付けている。	ねらいに応じた教材の開発や指導方法の効果的な活用の工夫をするなど、確かな指導技術を身に付けている。	豊富な経験から身に付けた確かな指導技術等を生かし授業実践をするとともに、同僚に適切な対応をしている。
授業評価・改善	授業改善の意義や授業を見直す手だてを理解し、実践しようとしている。	自分の実践を適切に見直し、その成果と課題を明確にした上で、次の実践に活かしている。	授業改善の意識を常にもち続け、より効果的な手だてを考え、次の実践に活かしている。	子どもの育ちの状況から授業を見つめ直し、自らの授業改善を図るとともに、同僚に適切な対応をしている。

【札幌市教員育成指標の活用方法】

各研修前後に、研修参加者が指標の達成状況等を理解し自己評価することで自身の課題を明確にし、資質・能力の向上を図る

【実施予定研修】

①研修名：札幌市小・中・高等学校等英語教育改善プラン会議（仮称） **小学校** **中学校** **高校**

対象者：市立教員

目的：目標管理項目①から⑥において、小・中・高等学校の各1校研究拠点校を設置する。令和3年度には、研究拠点校は札幌CAN-DOスタンダードを活用した公開授業、研修会を予定。については令和2年度内に英語教育推進リーダーなどの研究部員を含めた研究部会において、札幌CAN-DOスタンダードを作成し、活用の効果を検証する。

内容：・小・中・高等学校の外国語の学びの接続を意識した、札幌CAN-DOスタンダードを、実行委員会（20名程度）で作成
・小・中・高等学校の研修協力校（各1校）にて、札幌CAN-DOスタンダードを活用し、効果を検証する。

・市内教員に向けて、研修会を実施する。

予定者数：約180人

実施期間：新規事業

評 価：有識者（大学教授）

②研 修 名：札幌市中・高等学校等英語教員授業力パワーアップ研修（仮称）**中学校** **高校**

対 象 者：市立中・高・中等教育学校外国語・外国語活動担当教員 希望者
（特に平成29年以降に採用となった若手教員を推奨）

目 的：対話的な言語活動の充実と技能統合の指導の実現を図る

内 容：・外部専門機関による集合研修
・効果的なスピーキング活動について
・技能統合の活動について
・実践共有
・マイクロティーチング
・開催日数：3日間

予定者数：約50人

実施期間：新規事業

評 価：受講者のアンケート

③研 修 名：札幌市教育センター専門研修 外国語・外国語活動研修コース**小学校** **中学校** **高校**

対 象 者：市立小・中・高・中等教育学校外国語・外国語活動担当教員

目 的：教科等に関する専門的な知識や技能の習得により、指導力の向上を図る。

内 容：・小学校外国語活動① ～3・4年生～ <授業公開・講義>
・小学校外国語活動② ～5・6年生～ <授業公開・講義>
・中学校英語科教育 <授業公開・講義>
・小・中学校をつなぐ外国語活動と評価の在り方
・ALTを活用した小学校外国語活動 ～ALT活用のポイント・指導例～
・CAN-DOリストの作成と活用

予定者数：約120人

実施期間：継続実施（平成23年度～）

評 価：受講者によるアンケート

④研 修 名：札幌市教育研究推進事業

（小学校外国語・外国語活動部会、中学校外国語部会） **小学校** **中学校**

対 象 者：市立小・中・高・中等教育学校外国語・外国語活動担当教員

目 的：「札幌市教育振興基本計画」及び「札幌市学校教育の重点」等を踏まえた自主的・主体的な研究活動及び研修を通じ、それぞれの資質の向上に努め、各学校の外国語・外国語活動教育の振興を図る。

内 容：小学校・中学校・それぞれの部会による研究集会（年2回）

- ・講演等
- ・研究授業公開
- ・研究討議
- ・指導主事による伝達及び指導助言
- ・小・中合同学習交流会（年2回）
- ・研究授業公開
- ・研究討議
- ・担当校長または指導主事による伝達及び指導助言

小学校・中学校・それぞれの部会による全市研究部会（年4回）

各区研究部会（年9回）

予定者数：約600人
 実施期間：継続実施（昭和25年度～）
 評価：各区研究部会からの報告

⑤研修名：札幌市立高等学校教科別研究協議会 **高校**

対象者：市立高等学校・中等教育学校英語教員

目的：・札幌市立高校の生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ喜びを実感させる魅力ある授業を創造するため、教員の教科力（授業力）向上を図る
 ・全員参加のもと、参加意欲を引き出し、教育の動向にも配慮した意味のある研究協議となるよう内容を工夫するとともに、各校の交流を図り、教科指導について相互に学ぶ機会とする

内容：・実行委員会形式による集合研修
 ・研究授業公開
 ・研究討議
 ・指導主事による伝達及び指導助言
 ・開催期間：3日間（全体会1日、実行委員会2日）

予定者数：約80名
 実施期間：継続実施（平成28年度～）
 評価：実行委員会による参加者アンケート分析

⑥研修名：幼小中合同教育課程研究協議会
 （外国語・外国語活動・外国語部会） **小学校** **中学校**

対象者：管理職及び教諭

目的：各学校における教育課程の編成、実施に伴う諸課題について研究協議等を行い、教育課程の編成、実施の重点について理解を深めるとともに、目標や課題を共有することで札幌市の学校教育の改善・充実に図る。

内容：・研究発表
 ・研究協議
 ・指導主事による情報提供
 ・外国語担当学校長による助言

予定者数：約50人
 実施期間：継続実施（平成30年度～）
 評価：受講者のアンケート

⑦研修名：札幌市外国語指導助手指導力等向上研修 **小学校** **中学校** **高校**

対象者：本市勤務JET ALT、市立小・中・高・中等教育学校外国語・外国語活動担当教員

目的：一層効果的な語学指導ができるよう、必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸課題について研究協議を行い、外国語教育の充実に図る。

内容：外部専門機関（ブリティッシュ・カウンシル）による集合研修

予定者数：約100人（JET ALT 含む）
 実施期間：継続実施（平成30年度～）
 評価：受講者のアンケート

⑧研修名：小学校英語専科指導教員研修会 **小学校**

対象者：小学校英語専科指導教員

目的：小学校外国語教育の早期化・教科化に伴い、質の高い英語教育を行うこと。

内容：・実践事例発表
 ・グループ協議等

予定者数：約50人

実施回数：年2回

評価：受講者のアンケート

